

KAIKE PRESS #10

2022/december



特集

2022年の皆生温泉を振り返って

皆生温泉を取り巻く環境が、少しずつ変化しています。「地域住民のみなさんが行きたくなる場所=かいけ」となるために、住民も観光客も、だれもが心地良い時間を過ごせる場所づくりなど、少しずつですが、かかわる仲間と共に、着実に、環境が整いつつあります。2022年の様子を振り返りましょう



移動式屋台は地域のイベントなどでも利用可能なのでぜひ問合せを!!

歩きを楽しむ「うごくまちぐるぐるかいけ」が開かれました。点在したイベントゾーンに飲食の屋台やアウトドアの体験ブース、温泉を活用した足湯などが登場しました。そこから誕生した移動式屋台は、地域のみなさんの気軽に露店や、活動に使っていただきました。

灯りの整備

これまで街での経済活動が少なかつた夜の時間帯を活用しようと、エリア内灯りを刷新する実験を進めてきました。年明け3月までを目途に、海滨公園から海岸沿いの遊歩道、旅館白扇までの区間の照明が実際に刷新され。間もなく新たな魅力をま



車いすやベビーカー、足の不自由な方でも砂浜を歩きやすいマットも今年から整備された



灯りが変わると雰囲気がガラリと変わります、お楽しみに!!

誰もが安心して海や砂浜に親しめるユニークサーバービーチの実現を目指し、水陸両用車いすの貸出しなど様々な取り組みが行われています。障がいを持つ方も安全に海を楽しむ『カイケバラフエス』なども開催され、環境を整える取り組みが進んでいます。

海遊ビーチの強化

水一広場
毎月第1水曜日、これまで使われていなかった皆生温泉の土地や空間を、飲食や語らいを楽しめる姿を変える実験「水一(スイッチ)広場」。委員会が開かれる日に、メンバーが持ち回りで毎月実施し続けています。

皆生の嬉しい未来像を語り合っている場でもあります。ぜひみなさんお立ち寄りください!!



水一広場は誰でも参加いただけますので気軽に立ち寄りを!!

ワーキングショップ
委員会だけでなく、地元の人を巻き込み「新しい皆生温泉」の姿を話し合うワークショップを続けています。皆生温泉のメイン通り「四条通り」を中心とした地図に参加者の思い出やアイデアを書き込み、参加者が思い描く将来の四条通りの「妄想地図」を作成。立体化した「妄想模型」もつくり意見交換してきました。来年2月にも開催予定です。



こうなったらしい!こんなまちに住みたいな!そんな意見をみんなで今後も出し合って実現ていきましょう!!

皆生温泉のこれからを伝えるメディア

KAIKE PRESS #10

2022/december



特集

皆生温泉に関わる新たな人財が集いはじめた カイケエリアデザインスクール最終回

スクールはこれまでに、班に分かれた受講生が複数回のグループワークを重ね、地域の課題解決を目指した活用案などを話し合い、具現化・実験するイベント「ワクワクかいけ」を11月3日に開催。四条通りを中心とした一帯が、地域住民や家族連れで賑わいました。



各チームからの発表は今後の皆生温泉の課題など貴重なものばかり

半年におよぶスクールを卒業

皆生温泉や自分たちが暮らす街を元気にして、まちづくりに関わるプレーヤー(人)を増やす「カイケエリアデザインスクール」の最終報告会が12月8日、米子市観光センターで行われました。参加者は、座学・実践イベントで関わった皆生温泉の街への感想や、誰でも気軽に訪れることができる地域になるためのアイデアを話し合った魅力あふれるエリアになることを願つて卒業を迎えました。



これまでの取組みを振り返る一人一人の姿は真剣そのもの

スクールはこれまでに、班に分かれた受講生が複数回のグループワークを重ね、地域の課題解決を目指した活用案などを話し合い、具現化・実験するイベント「ワクワクかいけ」を11月3日に開催。四条通りを中心とした一帯が、地域住民や家族連れで賑わいました。

最終報告会ではこの約半年間の活動を振り返り総括を行いました。イベントを通して浮かび上がった課題や、エリアの潜在的な可能性について意見交換を行い、「子ども達の笑顔を見れて、参加して良かった」「関わった人も楽しめて感動した」となど、それぞれの感想を発表しました。

スクールを主催した皆生温泉エリア経営実行委員会の伊坂明会長は「10年、20年先を見据えて行動していくので、ぜひ一緒になって皆生温泉が盛り上がるよう、引き続き協力いただけたら幸いです」と受講生を労うと共に、今後の展開に期待を寄せました。

今後の展開に期待感大



チーム内の交流も進み「今後も同じチームで何かしたい」といった意見も

コラム

実行委員会のなか vol.7

「わたしの好きな皆生」

私は、昭和48年に米子市で生まれ、家業は旅館業でした。

当時は旅館と離れた地域に暮らしており、子ども時分の皆生温泉は大人のエリアと認識していました。沢山の旅館、銭湯、ヘルスランド、射的場、サニーポール、玩具屋、駄菓子屋、飲食店等。

100年前には何もない砂州の上にこれだけの旅館ホテル群が出来たと思うと、先人達のフロンティアスピリッツに改めて感服することがあります。

湯喜望 白扇 代表取締役社長 福本一宇

規模は違いますが、砂漠にラスベガスが出来たように、桃源郷を作ろうとした先人たちの浪漫が今でも皆生温泉には息づいていると思います。

歴史を紐解くと街の設計から、近代的で人工的なエリアとも言えそうです。

人間はストレスを感じると自然に身を置き、精神の浄化を求めると言われます。正に皆生温泉は現代人の癒しの場、日本海を眺め、松林を歩き、大山を望み、自然の食材に舌鼓を打ち、温泉で疲れを癒す、人間



が本来の姿に立ち返る、パワースポットなのかも知れません。

自然の恵みと、地元、観光客を含め、癒しの場である皆生温泉が大人になって益々好きになってきました。

今後も必要とされる温泉地になるよう、更に良い皆生温泉になる事を信じています。